

## 第2章 エネルギー消費の現状

### 1 現状 (1999年度)

我が国は、二度の石油危機を踏まえ、世界に先駆けて産業部門を中心に、エネルギーの利用効率化を進め、既に、世界的にも最高水準の実績を達成しているものの、依然としてエネルギー消費は増加しており、特に民生部門や運輸部門の伸びが大きくなっている。

兵庫県の1999年度のエネルギー消費量は、 $199,830 \times 10^9 \text{kcal}$  (2,160.3万kl (原油換算))であり、全国の5.4%に相当する。また、これを県民の人口で割った県民1人当たりの消費量は3.9kl/人 (原油換算)であり、全国平均2.9kl/人 (原油換算)を上回る。

部門別では、産業部門の割合が全体の64.9% (我が国では49.0%)を占めており、ついで運輸部門が16.6%となっている。また、燃料種別では、非石油系燃料、石油系燃料の占める割合が大きい。

1990年度比で見ると、エネルギー消費量全体では18.5%増加 (我が国では15.2%の増加)しており、特に民生部門 (業務系) が事務所等の延床面積の増加やオフィスのOA化の進展等により46.0%の増加、民生部門 (家庭系) が世帯数の増加や家電製品の多使用化等により34.7%の増加と、民生部門の伸びが顕著となっている。

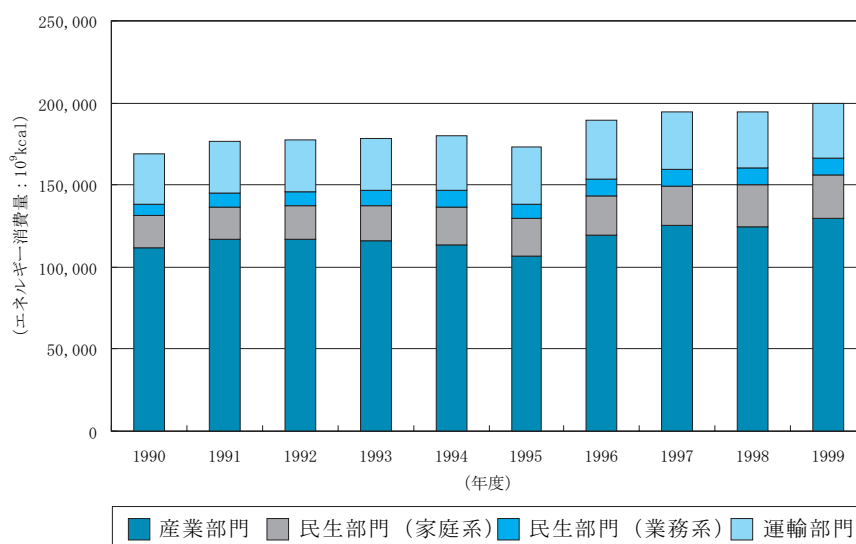


図. 部門別エネルギー消費量の推移

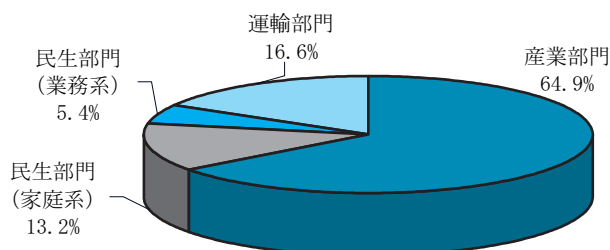


図. 部門別エネルギー消費量 (1999年度)

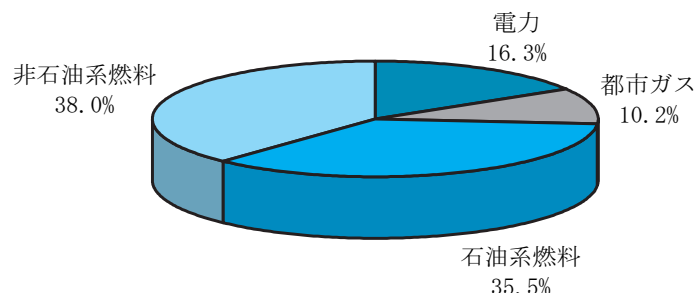


図. 燃料種別エネルギー消費量 (1999年度)

## 2 将来（2010年度）

2010年度の兵庫県のエネルギー消費量について、新たな対策を講じないまま推移するとして予測すると、 $206,926 \times 10^9 \text{kcal}$ （2,237.0万kl（原油換算））となり、1999年度比で3.6%の増加、1990年度比で約22.7%の増加となる。なかでも民生部門は、家庭系では世帯数の増加や家電製品の普及・多機能化、業務系では事務所等の延床面積の増加やOA化の進展等を反映して、伸びが大きくなると推測される。

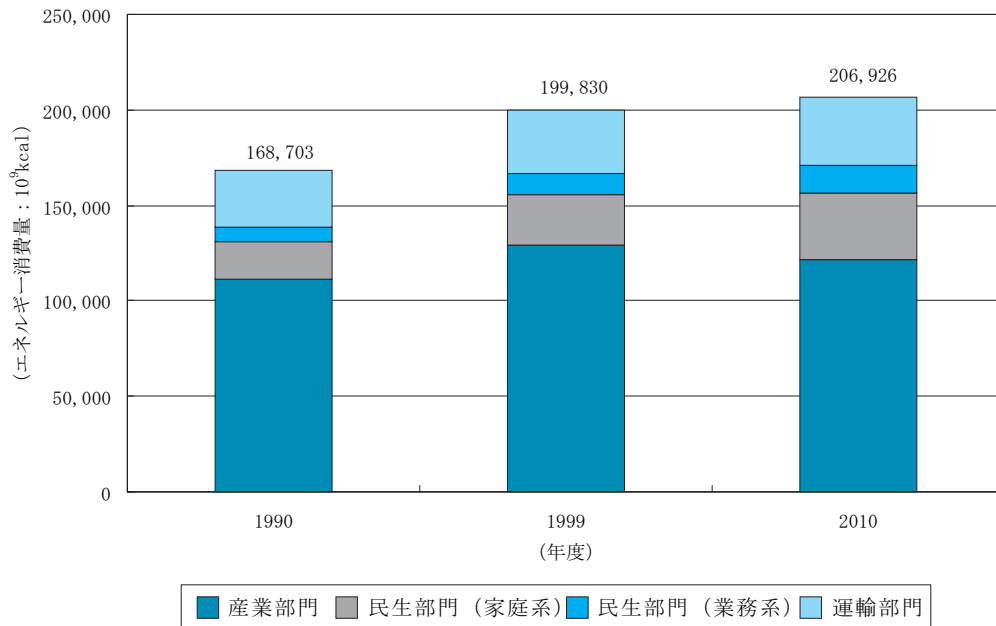


図. 部門別エネルギー消費量の推移